

長岡市における高等教育の 取組みについて

第32次地方制度調査会 第3回専門小委員会資料

新潟県長岡市長 磯田 達伸

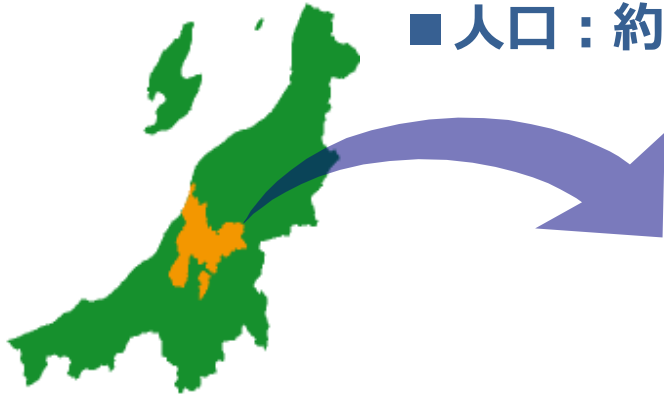
構 成

- 1 長岡市の概況
- 2 長岡造形大学における地域貢献・産学連携の取組み
- 3 大学を核としたまちづくり・産業振興の取組み

1 長岡市の概況

長岡市の概況

- 面積：約891.06km²
- 人口：約27.1万人 (H30.9.1)



■合併の状況

旧長岡市 (面積262km²、人口約19.2万人)

H17.4.1 周辺5町村と合併

H18.1.1 周辺4市町村と合併

H22.3.31 川口町と合併



■市章



魅力ある地方中核都市として限りなく発展する長岡市を、不撓不屈の不死鳥の姿に託して表現しています



交通の要衝に位置している
新潟県中越地域の中心都市

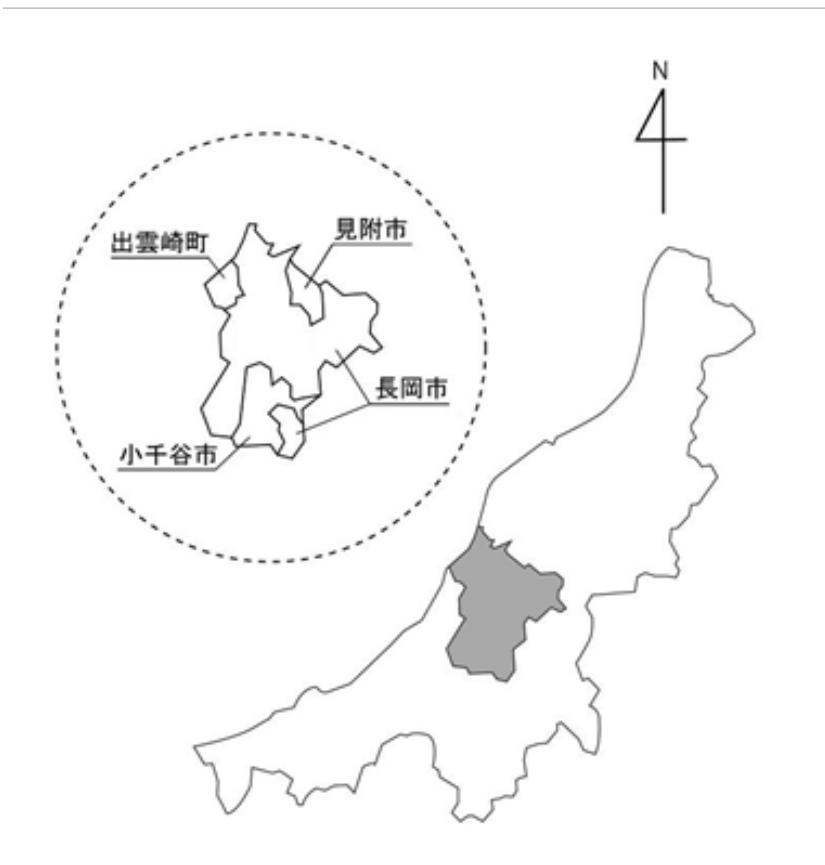
～「米百俵」のまち～

旧長岡市は、長岡城を中心とした城下町で、二度の戦禍（戊辰戦争と長岡空襲）で大部分の市街地を消失。平成16年10月に発生した中越大震災では、未曾有の被害を経験。その都度「米百俵の精神」で復興した...



米百俵の群像

長岡圏域について



名称	構成市町
長岡地域定住自立圏	長岡市、小千谷市、見附市、出雲崎町（3市1町）

(平成21年12月締結)

人口、面積

	長岡市	小千谷市	見附市	出雲崎町	合計
人口 (人)	275,133	36,498	40,608	4,528	356,767
比率 (%)	77.1	10.2	11.4	1.3	100.0
面積 (ha)	89,106	15,519	7,791	4,438	116,854
比率 (%)	76.3	13.3	6.6	3.8	100.0

出典：【人口】総務省「国勢調査」（平成27年10月1日現在）
【面積】第128回新潟県統計年鑑（県統計課）

通勤・通学流動

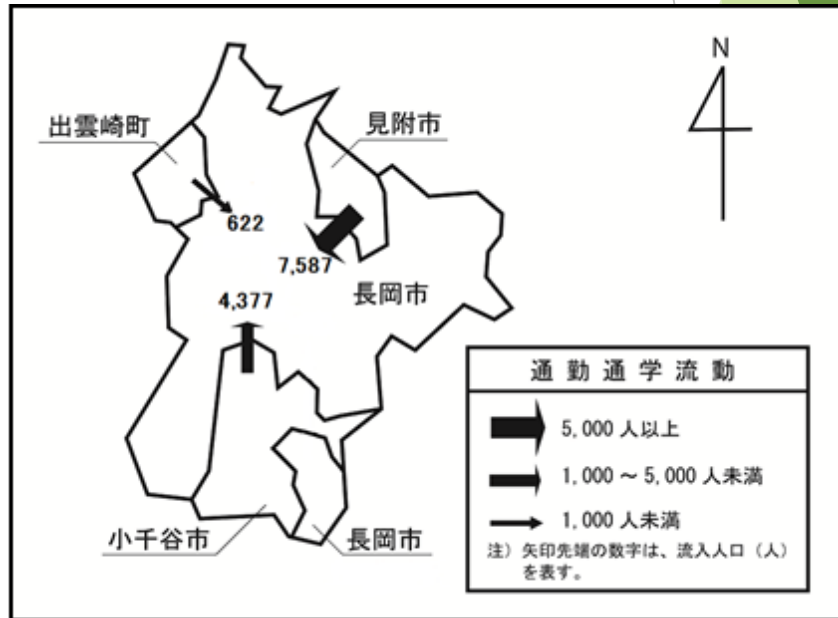


図 通勤者・通学者の長岡市への流入状況

出典：総務省「国勢調査」（平成27年10月1日現在）

長岡市の高等教育機関

長岡技術科学大学

(国立、工学系)
・世界大学ランキング日本版2017で
工科系大学全国2位
【在籍者数2,342人】

長岡造形大学

(公立、デザイン系)
・「デザイン思考」ベースの「イノベーション
デザイン領域」を大学院に新設
【在籍者数1,072人】

長岡大学

(私立、経済経営系)
・知の拠点施設として、地方創生
推進事業を実施
【在籍者数459人】

長岡工業高等専門学校

(国立、工業系)
・ロボコン世界大会で優勝多数
・卒業生の多くが長岡技大へ
【在籍者数1,125人】



平成31年4月開学

平成30年8月31日設置認可

長岡崇徳大学

(私立、看護系)
・中越地域初の看護大学
【収容定員320人】

3大学1高専
(& 15専門学校)



4大学1高専に
(& 15専門学校)

2 長岡造形大学における 地域貢献・産学連携について

長岡造形大学の概要

■ 沿革

平成 6年4月 長岡造形大学開学

平成10年4月 長岡造形大学大学院修士課程開設

平成13年4月 長岡造形大学大学院博士（後期）課程開設

平成26年4月 公立大学法人へ移行

■ 長岡造形大学開学の経緯

「子どもを地元で学ばせたい」という保護者の切実な願いと、「デザイン力と商品開発力を強化したい」という地元産業界からの強い要請。

この二つの強い思いを受け、地域社会を支える人材の養成と産業・学術・文化の発展に寄与することを目的として、平成6年4月に開学しました。

当時、政令指定都市以外は市立大学の新設が認められていなかったため、長岡市が土地と建物を整備し、大学法人が運営を行う「公設民営」方式によって設立しました。



■ 設置学部、学科、大学院

区分	学科等
造形学部	プロダクトデザイン学科
	視覚デザイン学科
	美術・工芸学科
	建築・環境デザイン学科
大学院	造形研究科造形専攻 修士課程
	造形研究科造形専攻 博士（後期）課程

■ 在籍者数（平成30度5月1日現在）

	入学定員	収容定員	在籍者数	留学生数
造形学部	230人	920人	1,048人	2人
大学院造形研究科	18人	39人	24人	2人
合計	248人	959人	1,072人	4人

公立大学法人化

■ 公立化について

- ・平成16年 4月 「公立大学法人制度」施行
- ・平成24年 7月 公立化検討の要望書提出
- ・平成24年 8月 公立大学法人化検討委員会発足
- ・平成24年11月 検討結果の報告書提出
- ・平成26年 3月 公立大学法人長岡造形大学 設立認可



長岡造形大学公立大学法人化検討委員会

■ 公立化要望の理由について

公立大学法人制度が、設立時の「公設民営方式」の趣旨と合致するもので、長岡造形大学の使命を全うする最適で安定した運営形態であるとの理由から、市に要望書が提出されました。

■ 検討委員会による検討結果について

「少子化時代の厳しい大学間競争」を勝ち抜くための抜本的な改革に取り組んでいることや、経営状況が黒字であることなどから、公立化について市民の理解が得られると判断し、公立化は問題ないとの結論に至りました。

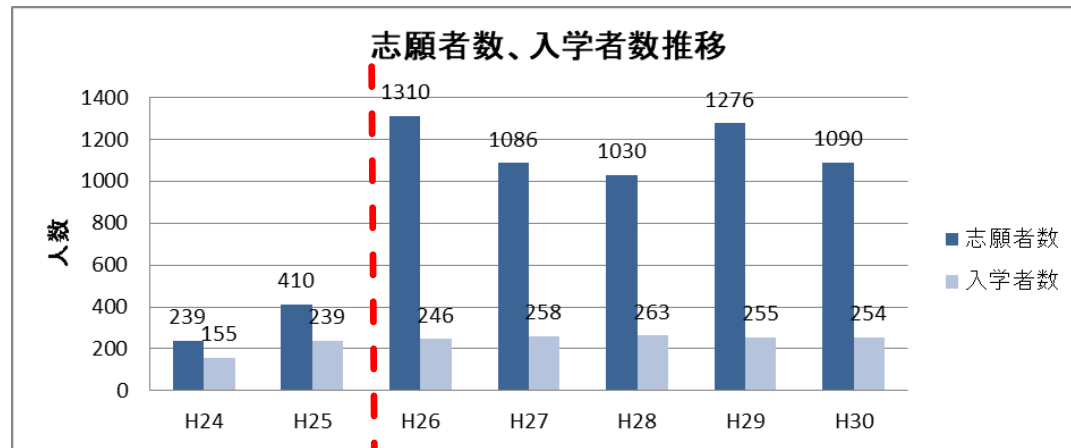
■ 市の方針について

開学当時、「市立大学」の新設が認められていなかったため、「公設民営方式」で開学したこと。

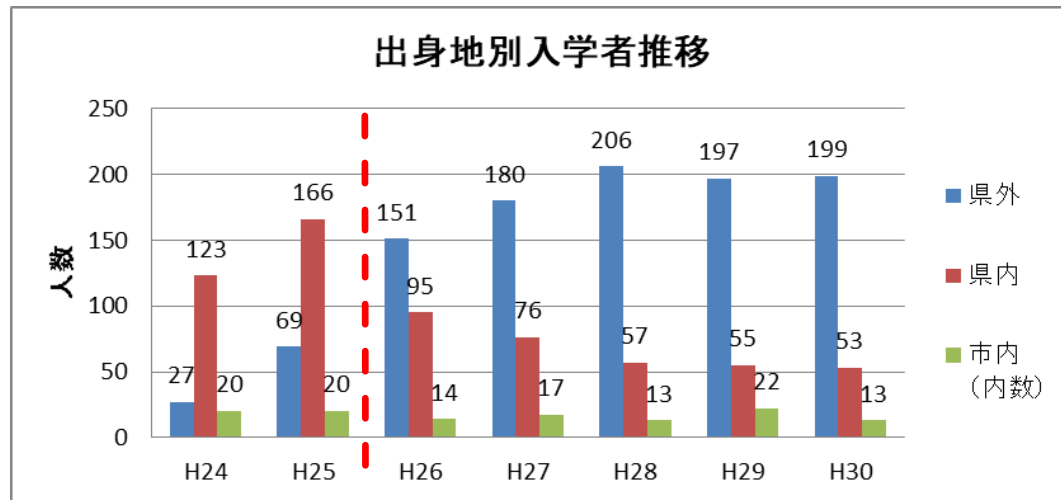
検討委員会で、大学の改革プランや今後の大学のあり方を議論し、公立化は問題ないという結論に至ったこと。

これらを踏まえ、公立化する方針を固めました。

志願者数・入学者数の推移



公立化



※出身地 = 出身校所在地

公立化後は、高い志願者数をキープ
入学者も定員（230人）を充足

公立化前：県内出身者が半数以上



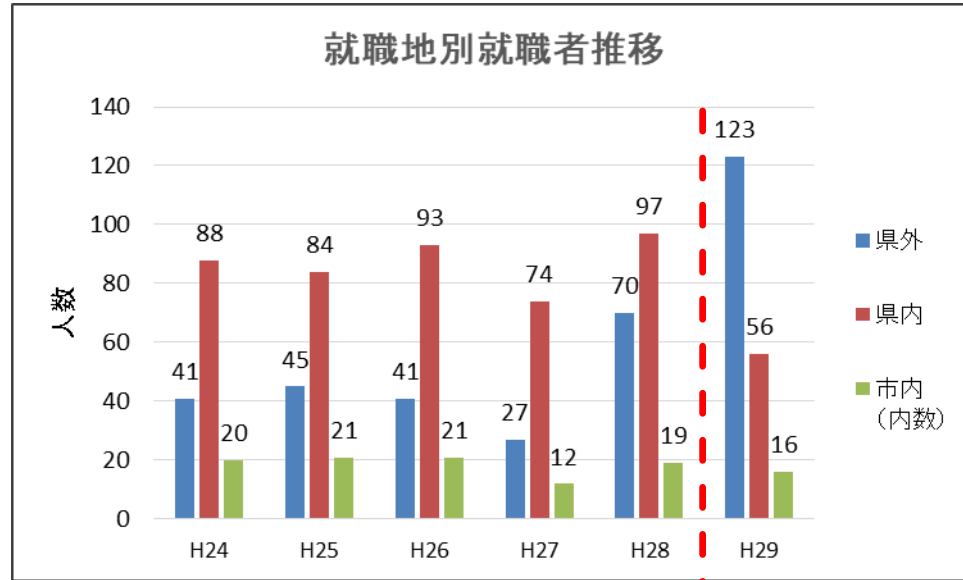
公立化後：県外出身者が増加

H27～ 県外出身者が7割以上に

(参考) 公立化年度：H26

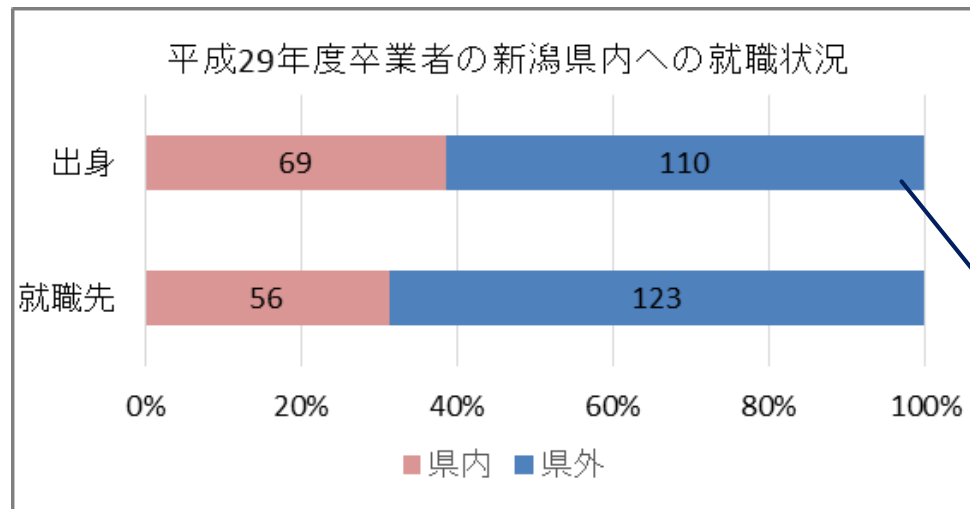
定員：230人

就職状況の推移



公立化時入学世代

- ・ 県外就職者が増加傾向にある。
- ・ 市内就職者は20人程で推移している。



- ・ H29県外就職率 69% (123/179)
- ・ H29市内就職率 9% (16/179)
- ・ 県内・県外出身者のいずれも就職先に県外を選ぶ人が多い。

県外出身者の市内就職率 9% (10/110)
 県内出身者の市内就職率 9% (6/69)

デザインを学ぶ公立の大学 長岡造形大学

○ 長岡造形大学が生み出す“可能性”

学ぶ

- ・ 色彩・形状のデザイン
- ・ デザインを生み出すプロセスやしぐみ
- ユーザー中心のものごとの見方・考え方を養い、
そして問題解決力、問題発見力を育てる〔デザイン思考〕

活かす

- ・ 製品やサービスのイメージアップ・付加価値向上
- ・ ユーザーに寄り添った製品・サービスの開発
- ・ 理論と感性が融合した企業経営・地域経営の創造
- ・ 地域全体のブランディングと活力の創出

地域貢献・産学連携について①

○デザイン研究開発事業【平成29年度実績 12件】

地域の企業・NPO・自治体などからの要請を受け、
共同研究・開発、調査、コンサルティング、デザイン制作業務などを実施。

受注者	件数 (H29)	主な業務内容
企業	5件	デザイン、商品開発研究、コンサルティングなど
NPO	1件	歴史的建造物群調査
自治体	6件	復興まちづくり計画支援、PR動画制作、ロゴマークデザイン (受注者：新潟県、長岡市、小千谷市、三条市、糸魚川市)



デザイン制作業務



コンサルティング業務



商品開発業務



歴史的建造物調査業務

地域貢献・産学連携について②

○地域協創演習【平成29年度実績 14件】

地域社会と教員・学生が協力し、新たな地域価値などの創出を目指す演習授業。

学生との協創を希望する地域・企業からの相談を受け、授業内で課題解決に取り組む。



十日町 人を呼ぶきものプロジェクト
(新潟県十日町市)



長岡野菜フリーペーパーデザイン
(長岡市)



みしま竹あかり街道プロモーション
映像制作プロジェクト
(長岡市三島地域)

地域貢献・産学連携について③

○市民への生涯学習機会の提供 (一例)

事業名	内容	参加者数 (H29)
市民工房	市民を対象に、ガラス、陶芸、染織など、本格的な工房を体験できる場を提供	585人
こどもものづくり大学校	小学生を対象に、デザイン、絵画、工芸、工作など、ものづくり経験の場を提供	156人
市民オープンキャンパス	こどもからおとなまで全ての方を対象にした、ものづくり体験プログラムを提供	約3,600人



市民工房



こどもものづくり大学校



市民オープンキャンパス

3 大学を核としたまちづくり・ 産業振興の取組み

3大学1高専による包括連携協定について

■ 包括連携協定の概要

締結日：平成19年10月4日（木）

協定先：長岡技術科学大学、長岡造形大学、
長岡大学、長岡工業高等専門学校

〔目的〕

多様な分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与する

〔連携・協力事項〕

- (1) 教育及び文化に関すること。
- (2) 福祉及び健康に関すること。
- (3) 生活・都市基盤に関すること。
- (4) 環境に関すること。
- (5) 産業に関すること。
- (6) まちづくりに関すること。

■ 締結の背景

- ・ 市内に3大学1高専の高等教育機関が集中立地。
- ・ 3大学とも異なる分野（科学技術系、デザイン系、経済経営系）を専攻。
- ・ 3大学1高専との連携により様々な分野の政策・事業の展開に期待。



大学を核としたまちづくりの取組事例①

NaDeC構想推進による産業振興について

平成29年11月、大手通坂之上町地区市街地再開発事業（仮称）の「人づくり・産業振興」の拠点における機能や事業について、3大学1高専から提案を受けました。



※NaDeC構想では、「人づくり・産業振興の拠点」に整備してほしい施設や、セミナー、ワンストップ窓口など、様々な機能や事業についてご提案いただきました。

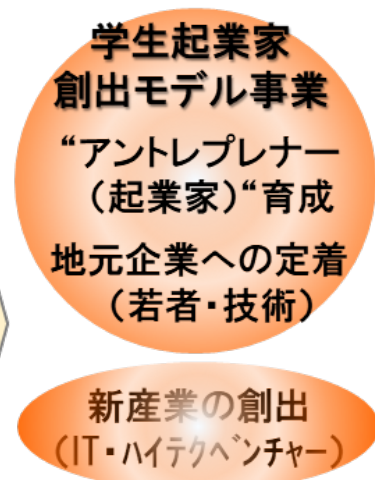
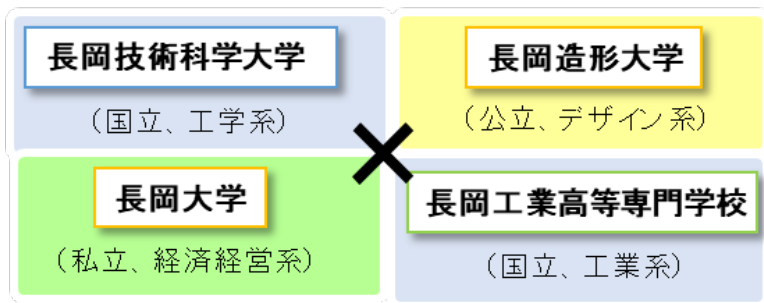
NaDeC（ナデック）とは

長岡（Nagaoka）の中心市街地を核として、3大学1高専の位置を線で結ぶと三角すい（Delta Cone）の形となることから、その頭文字を取ったもの。

大学を核としたまちづくりの取組事例①

長岡市の強み

① 3大学1高専+15専門学校



② 人的財産

長岡出身の起業家・先端技術者

清水亮 (人工知能研究・開発者)
長岡市生まれ。IPA認定天才プログラマー。



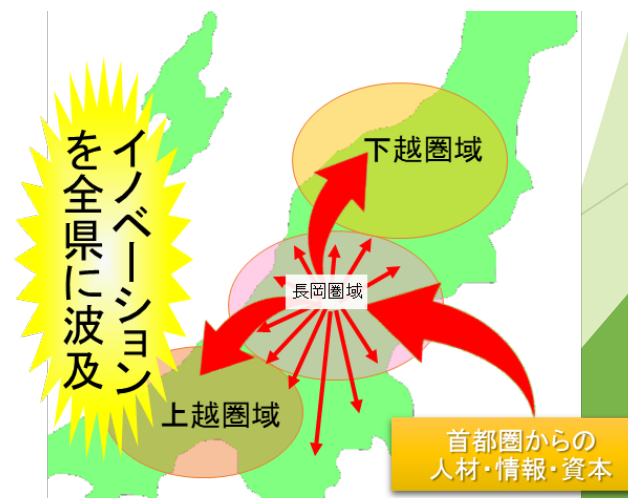
渋谷修太 (アプリ開発ベンチャー)
長岡高専卒、フラー㈱代表取締役CEO



③ ものづくり産業の集積

鉄工・鋳物関連業の基盤的技術と電子・精密機械や液晶・半導体など高度な技術を有する多様な分野の企業がバランスよく集まった技術の集積基地

3大学1高専との連携による「人づくり・産業振興」(NaDeC構想)を推進し、産業振興と働く場の創出、人材育成と教育環境の整備、そして将来に向けた都市インフラの整備により、「新しい米百俵」によるまちづくりを進めていきます。



大学を核としたまちづくりの取組事例①

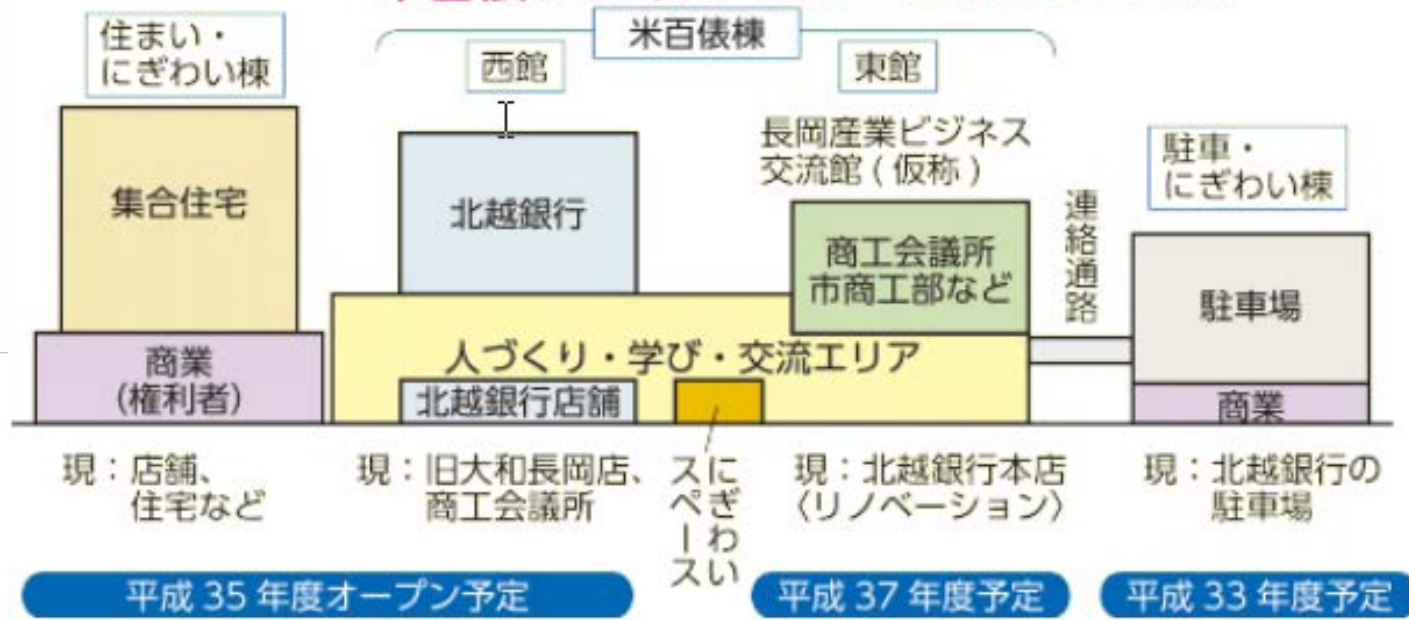
大手通坂之上町地区の市街地再開発事業で、人づくり・産業振興の拠点として4棟からなる「米百俵プレイス（仮称）」を整備します。



大手通坂之上町地区市街地再開発事業

- ・“米百俵”発祥の国漢学校跡地
- ・事業期間 H29～36
- ・概算事業費 約260億円

米百俵プレイス（仮称）の階層イメージ(案)



大学を核としたまちづくりの取組事例②



ながおか・若者・しごと機構

【機構について】

長岡市が策定した長岡版総合戦略において、将来を担う若者を地方創生の主役に据えており、この戦略の推進役として、平成27年12月に設立されました。

【特徴】

- ・市内の29機関（市内3大学1高専15専門学校、金融、産業、行政）が参画
- ・若者を中心とした理事会による組織運営

【運営体制】

- (1) 理事会 …若手経営者、会社員、市民活動団体代表など
- (2) アドバイザー …民間企業経営者、NPO法人代表など（40～50代の先輩世代）
- (3) 事務局 …市職員、長岡造形大学職員、商工会議所職員

①若者提案プロジェクト実現事業

若者自ら考えたアイデアの実現を支援



▲ながおか若者会議・ワークショップ

②若者の出会い・居場所づくり支援事業

若者の自然な出会いの場の提供や、同窓会イベントなどを支援



▲大成式



▲三十路人式

③長岡で学ぶ・働く魅力づくり事業

- ・小学生から段階に応じて長岡で働くことを意識してもらう取組みを実施
- ・市内の3大学1高専15専門学校の魅力を発信



▲学校で学ぶ魅力の発信



▲長岡しごと体験ランド



▲プログラミング教室